

遍路の捉え方

四国遍路には、どの宗教を信じるか、どの宗教に所属しているかに関係なく、誰でも参加できます。人々は様々な理由で巡礼に出ます。亡くなった愛する人の魂に祈りを捧げるために来る人もいれば、霊的な導きを求める人もいます。同様に、精神または肉体の挑戦としてこの旅に出る人も多くいます。巡礼を考えている人のほとんどに共通するのは、数日ずつであれ、数ヶ月ずつであれ、日常の暮らしを一休みして、1つの目的に身を捧げたいという気持ちです。袖なしまたは袖ありの白衣、笠、そしてお袈裟という巡礼者の服装を着ること、そして巡礼の慣行を実践することが、その目的の達成につながっていきます。巡礼の慣行には、寺で祈ったり納経帳に御朱印や書を集めたり他の巡礼者と会話することなどが含まれます。この巡礼は、宗教の厳しい修行の1種というわけではありません。文字通りの意味でも比喩的な意味でも旅です。巡礼者は、四国の町や森を歩いて旅をする中で、様々な景色、気候、状況、そして人々に出会うでしょう。それによって、人生での優先事項を考え直す新たなアイデア、インスピレーション、そしてチャンスが得られるのが理想とされています。